

OpenAI Deep Research

サッポロホールディングスが全社員に生成 AI を導入した件について、以下の観点で詳しく調査します。

- 導入の目的や背景: なぜ生成 AI を導入したのか、その狙いや戦略。
- 具体的な活用事例: 社内でどのように AI が活用されているのか。
- 社員の反応や影響: AI 導入後の業務効率化や社員の声。
- 競合他社との比較: 他の企業と比べてどういった特徴があるのか。
- 導入に関する公式発表やニュース記事: 企業の発表やメディアの報道内容。

調査結果がまとめ次第、お知らせします。

# サッポロホールディングス 全社員への生成 AI 導入 - 目的・事例・影響・競合比較

## 導入の目的や背景

サッポロホールディングス(以下、サッポロ)は DX(デジタルトランスフォーメーション)を経営戦略上の重点項目と位置づけており、その一環で生成 AI の活用に踏み切りました(サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース)。2022 年末に ChatGPT が登場したことで、生成 AI は今後の業務で当たり前に使われる標準技術となり、企業成長の鍵を握ると判断し、迅速に試験導入を決定しました(5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ)。主力事業が酒類・飲料で IT 人材が多くない同社では、DX 推進の中核人材育成や社員のデジタルリテラシー向上に注力しており、生成 AI もその延長線上にあります(5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ)(5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ)。

具体的には 2023 年 7 月に社内有志 160 名で試験利用を開始し、アンケートでは「非常に評価が高く有用性がある」ことがわかったため、2024 年 2 月から約 700 名(グル

ープ各社の企画・管理部門中心)に対象拡大しました ([5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。 独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。業務効率化による労働時間削減が大きな目的で、特に日常的に工数のかかる業務の生産性と品質向上を狙っています ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。年間 1 万時間の工数削減を目標に掲げ、DX 中期計画(2023~26 年)に沿って業務プロセス変革と創造性向上を目指す戦略です ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#)) ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。

導入にあたっては、セキュリティとコンプライアンスへの配慮が重要視されました。サッポロは ExaWizards 社の「exaBase 生成 AI (GPT-4 搭載)」を採用しましたが、これは入力プロンプトが学習データに利用されないことや管理者用ダッシュボードでログを確認できることが決め手でした ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。当時このような情報保護を明確に謳っていたサービスは限られており、コスト効率や利用データの可視化機能も評価ポイントだったとされています ([5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。 独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。要するに、データ漏洩のリスクを抑えつつ社員が安心して生成 AI を使える環境を構築することが目的の一つでした。

## 具体的な活用事例

現在、サッポロ社内では生成 AI がさまざまな業務用途で活用されています。特に多い活用例として次のようなものが挙げられます ([5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。 独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)) ([5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。 独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)):

- **文書の要約:** 報告書や調査資料など長文テキストを要約し、内容把握や資料作成の手間を削減 ([5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。 独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。

- **企画立案・アイデア出し:** 新商品や施策の企画段階でプレスト相手(壁打ち役)として AI を活用。課題に対する解決策の提案を複数回やりとりし、発想を広げるのに役立っている ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)) ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。
- **プログラミング支援:** DX 推進部署ではソースコードの自動生成に積極的に利用。プログラミング未経験の社員が数ヶ月で機械学習のコンペに挑戦できるまでスキルを伸ばす例も出ている ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)) ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。
- **文章作成・校正:** 稟議書(承認文書)やプレゼン資料など社内文書のドラフト作成やチェックに活用。例えば稟議文書のひな型を AI が生成・校正してくれるため、現場のニーズに即した文書作成が迅速化している ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#)) ([サッポログループが ChatGPT を試験導入、独自のプロンプト集で年間 1 万時間の削減を目指す | IT Leaders](#))。広報部ではプレスリリース作成時の叩き台や構成案の作成に組み込む運用も行われています ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。
- **デザイン支援:** 資料のトーン&マナー(デザイン指針)策定では、AI にカラーコードやフォントサイズの提案をさせるケースもあり、クリエイティブ面でのユニークな使い方が生まれています ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。
- **対話シミュレーション:** 管理職が 1on1 面談の前に、AI を仮想の対話相手としてシミュレーションし、「どのような言い方が良いか」アドバイスを得る活用例もあります ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。これは部下との円滑なコミュニケーション準備に役立っています。

このように、単純作業の効率化から発想支援、スキル習得の補助、人間関係のマネジメント支援にまで、生成 AI が幅広く活用され始めています。サッポロでは社内システムや業務フローに合わせた[独自プロンプト集](#)を ExaWizards 社と共同開発しており、社員はそれを参考に業務で AI を使いこなしています（[サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#)）。これにより「何を AI に聞くべきか」が明確化され、[現場のニーズに即した具体的なアウトプットを得やすくしている点](#)が特徴です（[サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#)）。

## 社員の反応や影響

社員の評価は概ね好意的です。試験導入当初の 160 名に対するアンケートでは、生成 AI の有用性について「[非常に評価が高い](#)」との結果が得られました（[5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)）。現在拡大導入された約 700 名のうち、毎月実際に AI を使う利用者は約 56%に上り（5 ヶ月間の月平均利用率）（[5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)）、社員の半数超が日常業務で AI を活用していることとなります。月間の AI への質問件数も約 1.4 万回に達しており（[5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)）、多くの社員が継続的に生成 AI を業務のパートナーとして取り入れている状況です。社員からは「業務効率が上がった」「発想の幅が広がった」といった声のほか、前述のように未経験分野の学習に AI を活用できたという自己成長につながる事例も報告されています（[5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)）。

業務効率化の数値効果も明確に現れています。試験導入を本格展開した最初の 5 ヶ月間で約 5000 時間の工数削減が確認されており（[5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)）、単純計算で年間 1 万時間以上の削減ベースです。これは当初目標としていた年間 1 万時間を上回る勢いで、DX 推進部では効果を定量的に可視化する独自ダッシュボードでこうした実績をモニタリングしています（[5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人](#)

[材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。さらに、削減できた時間＝人件費換算したコスト効果が、5ヶ月連続で AI 利用料を上回ることも確認されました ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。つまりコスト面でも ROI がプラスであり、生成 AI 導入は費用対効果に優れた施策として社員にも経営層にも受け止められています。

加えて、サッポロでは社員への教育・支援体制も整えています。導入時には未経験者向けの「基礎講習会」をオンライン開催し、オンタイムで 450 名以上が参加するなど関心を集めました ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。また各部署から\*\*“AI 推進担当”となる人材を育成し、現場での活用定着をリードさせる取り組みも行っています ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。独自プロンプト集の整備や成功事例の社内共有など活用促進策により、社員のリテラシーと AI 活用率は着実に向上しているようです ([5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#))。これらの結果、社員からは「単純作業が減り創造的な業務に時間を割ける」「AI を業務の相棒として使いこなしている」といった前向きな反応が得られており、現時点では生産性とモチベーション双方の向上\*\*につながっているといえます。

## 競合他社との比較

サッポロによる生成 AI 全社導入の取り組みは、業界内外の他社と比較しても先進的かつユニークな側面があります。競合となる大手飲料メーカー各社も生成 AI 活用を進めつつありますが、そのアプローチやスピードは様々です。

- キリンホールディングス: 2024 年 11 月に\*\*「KIRIN BuddyAI Project」を開始し、国内グループ社員約 1 万 5000 人全員への生成 AI 導入を 2025 年末までに目指すと発表しました ([キリンHD 25 年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。まずマーケティング領域の約 400 名に「BuddyAI for Marketing」を先行導入し、順次営業や研究開発にも拡大予定です ([キリンHD 25 年末までに国内グループ全従業員に業務特化型生成 AI 導入 マーケティング領域で先行導入 | ニュース | ミクス Online](#))。キリンの BuddyAI は業務領域ご

とに特化したプロンプトテンプレート\*\*(約 15 種類)を実装した社内構築型の生成 AI 環境で、例えば商品コンセプト立案、ネーミング案出し、市場調査設計、商談資料の構成作成などに対応します ([キリン、独自構築の業界特化型生成 AI「BuddyAI」を活用へ ― 年間約 3 万時間の創出を見込みます | DX Stock\(DX ストック\)](#))。マーケ領域 400 名への導入だけで年間 2 万 9000 時間の業務時間創出(削減)を見込むなど、その期待効果はサッポロを上回る大胆な目標値が示されています ([キリン、独自構築の業界特化型生成 AI「BuddyAI」を活用へ ― 年間約 3 万時間の創出を見込みます | DX Stock\(DX ストック\)](#))。キリンは「生成 AI によって生まれた時間をより付加価値の高い業務に充てる」ことを掲げており、DX ビジョン「KV2027(価値創造を加速する ICT)」の具体策として全社展開を図っています ([キリン、独自構築の業界特化型生成 AI「BuddyAI」を活用へ ― 年間約 3 万時間の創出を見込みます | DX Stock\(DX ストック\)](#))。

**対比:** キリンは自社専用 AI 基盤を構築しプロンプトも内製するトップダウン型アプローチで全社員展開を急速に進めています。一方サッポロは外部サービスを活用しつつ有志から開始するボトムアップ型で、まず効果検証とノウハウ蓄積を重視して段階拡大した点が対照的です。

- **アサヒグループホールディングス:** アサヒは 2023 年 9 月、社内チャットボット「Asahi Chat」を試験導入すると発表しました。Microsoft の Azure OpenAI Service を基盤に最新の GPT-4 を活用した社内向け生成 AI 環境を構築し、まず全社横断で約 300 名(全事業部門から選抜)に提供しています ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。目的は「最新の生成 AI をいち早く導入し日常業務で活用できる環境を整備する」ことであり、社員一人ひとりが業務に AI を活かせる状態を目指すとしています ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。情報漏洩リスクに配慮し、入力データは AI の学習に使わず利用ごとに消去する仕様を取り入れるなど、セキュリティ面の対策も万全を期しています ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))。アサヒは「生成 AI がビジネスのあらゆるシーンで活用され、これを使いこなせるかが企業の競争力に直結する」との認識を示しており ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#))、社内プロジェクト『ジェネレーティブ AI「やって TRY」プロジェクト』で公

募した約 100 名の社員とともに活用アイデアの横断展開も図っています（『[ジェネレーティブ AI「やって TRY」プロジェクト](#)』を発足。生成 ...）。

対比: アサヒはまず限定的な人数で\*\*PoC(概念実証)\*\*を行い、安全性を確認しながら徐々に展開する慎重な姿勢がうかがえます。セキュリティ対策や最新技術へのアップデート(GPT-3.5 から 4 へ速やかに移行 ([生成 AI を活用した「Asahi Chat」を試験導入 最新の基盤技術「GPT-4」をビジネスで活用し競争力強化へ | ニュースルーム | アサヒグループホールディングス](#)))に注力している点が特徴で、**全社員一斉展開よりも段階検証型のアプローチ**です。サポートはこれに比べると対象 700 名と規模を拡大した上で効果測定を行っており、**効果が見込める部署から素早く導入して成果を出す機動力**が際立っています。

なお、業界全体を見渡すと、飲料メーカー以外でも全社的な生成 AI 導入の動きがみられます。例えば教育大手ベネッセでは社内向け AI チャットボット「Benesse GPT」を開発し、グループ社員 1.5 万人に提供を開始しました（[ChatGPT\(チャット GPT\)の活用事例 10 選【2025 年版】](#)）。また食品メーカーの日清食品グループでは 2023 年 4 月に ChatGPT を試験導入し、わずか 3 週間で**全社展開するスピード導入**を実現しています（[5 か月連続で「工数削減効果>利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#)）。こうした他社事例と比べても、サポートの取り組みは**早期に着手しつつ着実に効果検証**を行っている点でバランスが取れており、自社ニーズに合わせたプロンプト開発や人材育成を伴う導入施策は他社にとっても参考になるものといえます。

## 導入に関する公式発表やニュース記事

サポートホールディングスは 2024 年 1 月 25 日付でプレスリリースを発表し、今回の生成 AI 導入について公式に公表しました（[サポートグループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サポートホールディングス株式会社のプレスリリース](#)）。その内容によれば、2 月 1 日から ExaWizards 社の「exaBase 生成 AI」をグループ各社の企画・管理系部門 約 700 名に試験導入するとしています（[サポートグループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サポートホールディングス株式会社のプレスリリース](#)）。同リリースでは、採用したサービスが Microsoft 社提供の GPT モデル(Azure OpenAI)を利用した SaaS であり、\*「インプットデータを学習に利用しない」「入力ログを確認できる管理ダッシュボードがある」\*ことを踏まえて選定したと説明されています（[サポートグループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サポートホールディングス株式会社のプレスリリース](#)）。また、

サッポロ独自のプロンプト集を用意し、稟議書の作成・校正など現場ニーズに応えることで年間約 1 万時間の工数削減を目指す計画も明記されました ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。さらに、試験導入の結果を検証した上で対象部門・業務の拡大や業務プロセス自体の改善、創造性向上といった効果創出も狙う方針が示されています ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))。公式発表から、サッポロが今回の生成 AI 導入を DX 戦略の一環と位置付け、中長期的な業務改革につなげようとしていることが読み取れます。

この公式発表内容は複数のメディアでも報じられました。IT 専門メディアの報道では、サッポロが対話型 AI(ChatGPT)を約 700 人に試験導入し、独自プロンプト集で年間 1 万時間の削減を目指すが見出しで伝えられています ([サッポログループが ChatGPT を試験導入、独自のプロンプト集で年間 1 万時間の削減を目指す | IT Leaders](#))。記事中には、各社の業務に即したプロンプト開発により稟議文書の作成・校正など現場のニーズに応えようとしている点や、効果検証後に対象を拡大予定であることが強調されました ([サッポログループが ChatGPT を試験導入、独自のプロンプト集で年間 1 万時間の削減を目指す | IT Leaders](#)) ([サッポログループが ChatGPT を試験導入、独自のプロンプト集で年間 1 万時間の削減を目指す | IT Leaders](#))。また、Biz/Zine や EnterpriseZine といったビジネス IT 媒体も同様の内容を取り上げており、「現場ニーズに応える独自プロンプトで 1 万時間削減へ」 ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#))といったフレーズでサッポロの狙いを紹介しています。要するに、公式発表・報道双方で、サッポロの生成 AI 導入は「DX 推進の具体策として業務効率化と創造性向上を両立させる取り組み」であると位置付けられていると言えます ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#)) ([サッポログループが ChatGPT を試験導入、独自のプロンプト集で年間 1 万時間の削減を目指す | IT Leaders](#))。特に「全社員に生成 AI を提供する時代の先駆きの事例」として注目されており、今後の展開についても引き続き報道や発表がなされていくものと考えられます。

**参考文献・情報源:** サッポロホールディングス公式プレスリリース、IT Leaders 記事、ExaWizards 導入事例インタビュー、各社ニュースリリースなど ([サッポログループで業務工数削減を目的とした生成 AI の試験導入を開始 | サッポロホールディングス株式会社のプレスリリース](#)) ([サッポログループが ChatGPT を試験導入、独自のプロンプト集で年間 1 万時間の削減を目指す | IT Leaders](#)) (5 か月連続で「工数削減効果 > 利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の



[削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ](#) (5 か月連続で「工数削減効果> 利用料」を達成。独自プロンプト開発や推進人材育成により、年 10,000 時間の削減を見込む - 株式会社エクサウィザーズ)。上記引用箇所を示したとおり、企業発表およびメディア報道から最新情報を整理・引用しました。